

## ■所管事務調査報告■

産業建設常任委員会

令和2年2月19日

調査事項	地域公共交通について（行政視察：岡山県玉野市）
調査日時	令和2年1月22日13時30分から
調査項目	地域公共交通について
調査によって明らかになった事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「市民の外出の機会を増やし、心身ともに健康で生涯活躍してもらいたい。また、免許を持たなくても日常生活に困らない市にしたい」という市長の思いで玉野市の公共交通の見直しが平成22年度に始まった。</li><li>・ アンケート調査や地域説明会の後、地域公共交通計画を策定し、利用促進並びに実証運行評価の検証を行い、平成25年4月から本格運行を開始した。</li><li>・ 実証運行評価によると、利便性の向上、運行効率の向上、利用者の増加等一定の効果が出ているが、その後も予約システムや配車システムの導入、そして継続的な地域での説明会により利用促進を図るなど問題の解決に取り組んでいる。</li></ul>
考察	<p>玉野市の地域公共交通はシーバス（デマンドバス）とシータク（デマンドタクシー）を効率的に利用することで、公共交通を利用できる人が大幅に増加しており、効果を発揮している。また、観光客や自動運転、MaaSなど新技術への対応にも取り組んでおり、本市もこれらの取組を参考にしながら本市独自の地域公共交通を形成していくことが重要であると考えます。</p>

調査事項	水道事業の広域化について（行政視察：香川県広域水道企業団）
調査日時	令和2年1月23日10時30分から
調査項目	水道事業の広域化について
調査によって明らかになった事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 香川県内各市町の水道事業の課題である香川用水の取水制限の頻発化、全国の水道事業の共通課題である人口減少による給水収益の減少や施設の老朽化による更新需要の拡大、施設の耐震化等に対応するため、県内水道事業の広域化に取り組んだ。</li><li>・ 広域化への歩みは、平成20年の県及び市町水道担当者による「水道広域化勉強会」の開始から、その後トップ政談会での協議、広域化専門委員会の設置、知事及び8市9町長で構成する広域化協議会の設置、検討協議会の設置などを経て、平成27年に香川県広域水道事業体準備協議会（法定協議会）を設置した。そして、平成29年8市8町で広域化基本協定を締結した後、「香川県広域水道企業団」を設立し、翌平成30年4月から事業開始となった。</li><li>・ 香川県水道広域化基本計画は「組織体制」「財務運営」「施設整備」等、それぞれの項目ごとに細部まで記載がある。</li><li>・ 令和2年度から企業団事務所を県内5か所に集約し、料金、給水工事システム及び入札・契約制度の統一実施に取り組む予定である。しかしながら、事務統合が完了するまでにはかなりの時間を要する。</li></ul>
考察	<p>香川県の水資源の深刻さ（他県への依存度が49.4%）を改めて認識した。その背景が県単位での広域化の推進力となっていると感じた。それだけに、施設の更新費用の削減、効率的な人員配置、水源の一元管理や管理体制の充実など広域化の効果は大きく、運営基盤の強化や住民サービス水準の向上を図ることが期待されている。本市と宇部市との水道事業広域化についても、2市のみの広域化だけに違った意味での難しさがあるものの、同様の効果は期待できると思うところである。今後の動向を注視しながら審議していきたい。</p>